

経堂バプテスト教会

2008年8月3日

教会短信

No. 22

牧師 間瀬 善彦

「実に、キリストはわたしたちの平和であります。2つのものを1つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、…十字架によって敵意を滅ぼされました」(エフェソ 2:14-16)。

神学生時代に、同級生たちと韓国を旅した時です。現地の教会の青年にガイドをお願いしたところ、快く引き受けてくださいました。全くわたしたちと初対面にもかかわらず、親切にお世話していただき大変感激させられた経験があります。ある方はわたしたち全員をご家庭に招いて、韓国料理をご馳走し手厚くもてなしてくださいました。日本人は初めて会った人をその日に自分の家庭に招いてもてなすということはめずらしいことですが、韓国ではよくあることであるそうです。

心が痛むことがありました。わたしたちがパゴダ公園を訪れたとき、きっと何かの集会が行われていたのでしょう。わたしたちが知らずに公園の中を歩いていくと、そこにいたお年寄りたちが敵意の目でわたしたちの方を見たことが忘れられません。考えてみれば3月でした。ですから、おそらく独立記念の集会が行われているところに、いかにも日本人とわかる一団が来たので厳しい目で見てしまったのでしょう。日本の植民地時代、お年寄りたちは日本人から酷い扱いを受けたのかもしれませんが。それが場違いの場に急に現われた日本人たちに、憎悪の目を向けることになったのでしょう。

あんなに隣人に対して親切的な韓国人の中にも、日本人に対する憎しみを未だなくすことができない人たちがいるということを、わたしは心が痛みました。日本人は深く受け止めなければならないと思います。人は人にしたことは忘れてしまいますが、人からされたことはなかなか忘れないものです。「十字架によって敵意を滅ぼ」して下さったイエス・キリストに寄り頼む以外には解決の道はありません。キリストは十字架上で自分を殺そうとする人びとのために、「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです」と執り成しの祈りをされました。そのようにして、わたしたちの間にある「敵意という隔ての壁を取り壊し」くださったのです。

経堂バプテスト教会

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30 TEL 03-3427-2352

当教会は、エホバの証人、モルモン教、統一協会とは一切関係ありません。

平和について考える

「恐ろしき戦争という嵐が、世界を吹きまくった今日、ヨーロッパの一角に燦然と輝く文化国家デンマークの姿は、丁度、嵐が去った後、野原の一隅に咲く一輪の花の如く、美しく清らかであります」……タイムスリップして、太平洋戦争後 1950 年代、某高校弁論大会の朗読文である。

今年も、8 月を迎えた。敗戦記念・靖国・平和……と私の年代には憂鬱な夏である。

あたかも、戦前生まれは罪人のように……。そこで考える、本当に平和はあるのだろうか。国というものを形成し、領土というものがあり、国境が存在する限り、本当の平和はないと思う。政治が国益を優先し、国民を犠牲にし、強制し、格差というものが存する以上、絶対に平和はない。個々にも、3 人寄れば、2 対 1 の派閥となる、これは本当の平和の姿ではない。聖書の御言葉を拾ってみる。

「剣を取る者は皆、剣で滅びる」(マタイ福音書 26:52)。

「わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな」(ヨハネ福音書 14:27)。

「正義が造り出すのは平和であり、正義が生み出すものは、とこしえに安らかな信頼である」(イザヤ書 32:17)。これは「神の義」というもので、人間的正義ではない。正義を振り廻す争いが起きることもある。「神の義」が理解できる人は、僅か 1% のキリスト者だけかもしれない。それでも神の義にすがらなければならない。平和とは、戦争がないということだけではない。一見・平和、妥協する平和、その実、心は争いの葛藤では真の平和はどこへやら……。次代を生きる人達に「本当の平和」を考えて貰いたい……。8 月である。

集会案内

主日礼拝	日曜日	AM : 10 : 30 ~ 11 : 30
教会学校	日曜日	AM : 11 : 45 ~ 12 : 30
青年科・成人科		
聖書を学ぶ会		
	火曜日	PM : 13 : 00 ~ 14 : 00
聖書研究・祈祷会		
	水曜日	PM : 19 : 30 ~ 20 : 30

